

熊本商工会議所・第30回経営動向調査

平成15年12月期結果報告書

業況DI マイナス29.2 対前期比6.7ポイントの好転

～厳しい中に回復傾向が見られるが、業種により一進一退の動き～

調査結果のポイント

全業種の業況DIはマイナス29.2となった。しかし平成15年9月期の前回調査との対比では、プラス6.7ポイントで、平成15年3月期調査から3期連続して好転。対前年同期比でもマイナス41.0とプラス1.5ポイントの好転となった。

対前期比において前回調査(9月)から業況が好転したのは5業種。製造業が32.0(プラス28.0ポイント)、小売業が34.7(プラス22.2ポイント)、卸売業が35.5(プラス12.8ポイント)、建設業(職別・設備)が±0.0(プラス9.5ポイント)、建設業(土木)が33.3(プラス7.9ポイント)となった。

また業況が悪化したのは2業種。飲食業が54.5(マイナス37.8ポイント)、サービス業が24.4(マイナス20.1ポイント)となった。

今回の調査では、全体的に回復傾向の動きがあるものの、業況DIは依然としてマイナスの低水準となった。建設業(職別・設備)においては、基準点の±0,0で平成9年3月期以来、6年ぶりにマイナスを脱した。前回調査で好転傾向を示した飲食業とサービス業は、需要低迷を主因として厳しい状況が見られる結果となった。

調査対象期間 平成15年10月～12月(平成15年度第3四半期)

調査期間 平成15年12月8日(月)～12日(金)

調査対象数 熊本市内小規模企業 292事業所

回答数 202事業所(回答率69.2%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

(業種別回答状況)

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	25	67.6
建設業(土木)	22	18	81.8
建設業(職別・設備)	34	23	67.6
卸売業	35	31	88.6
小売業	71	49	69.0
飲食業	23	11	47.8
サービス業	70	45	64.3
合計	292	202	69.2

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期(9月期)比を主とした概況

全業種

受注・販売単価がやや改善したなかで仕入単価はやや悪化。売上高は大きく改善され、営業利益も改善。全体の業況は依然として厳しいマイナスの状況にあるものの前回調査(9月)からやや改善した。

全業種における業況D Iの変化 15年9月期 35.9 15年12月期 29.2

製造業

受注単価、仕入単価ともにやや悪化したなかで、売上高が大きく改善し、営業利益は大きく改善した。全体の業況は大きく改善した。

製造業における業況D Iの変化 15年9月期 60.0 15年12月期 32.0

建設業(土木)

受注単価が改善したなかで、仕入単価はほとんど横ばい。売上高が大きく改善し、営業利益はやや改善した。全体の業況は、やや改善した。

建設業(土木)における業況D Iの変化 15年9月期 41.2 15年12月期 33.3

建設業(職別・設備)

受注単価が改善したなかで、仕入単価はやや悪化。売上高がやや改善し、営業利益はやや改善した。全体の業況は好転。

建設業(職別・設備)における業況D Iの変化 15年9月期 9.5 15年12月期±0.0

卸売業

仕入単価はやや悪化なかで、販売単価はやや改善。売上高が大きく改善し、営業利益は大きく改善した。全体の業況は改善した。

卸売業における業況D Iの変化 15年9月期 48.3 15年12月期 35.5

小売業

仕入単価はやや悪化し、販売単価はやや改善。売上高が改善し、営業利益は改善した。全体の業況は、改善した。

小売業における業況D Iの変化 15年9月期 56.9 15年12月期 34.7

飲食業

販売単価、仕入単価ともに悪化。売上高がやや悪化し、営業利益もやや悪化した。全体の業況は大きく悪化となった。

飲食業における業況D Iの変化 15年9月期 16.7 15年12月期 54.5

サービス業

販売単価はほとんど横ばいながら、仕入単価はやや悪化。売上高が好転し、営業利益は改善となった。全体の業況は悪化となった。(今回は業況不変の回答が最も多かったが、悪化が好転を上回ったため)

サービス業における業況D Iの変化 15年9月期 4.3 15年12月期 24.4

業種別の業況一覧

上段 = 対前期比 下段 = 対前年同期比

業 種	今 回 調 査 (平成15年12月期)	前 回 調 査 (平成15年9月期)	比較ポイント
製 造 業	32.0	60.0	+28.0
	24.0	52.4	+28.4
建 設 業 (土 木)	33.3	41.2	+ 7.9
	44.4	52.9	+ 8.5
建 設 業 (職別・設備)	± 0.0	9.5	+ 9.5
	18.2	23.8	+ 5.6
卸 売 業	35.5	48.3	+12.8
	40.0	51.7	+11.7
小 売 業	34.7	56.9	+22.2
	65.3	58.8	6.5
飲 食 業	54.5	16.7	37.8
	45.5	25.0	20.5
サービ業	24.4	4.3	20.1
	33.3	12.8	20.5
全 業 種	29.2	35.9	+ 6.7
	41.0	42.5	+ 1.5

来期(1月~3月)の見通しD I

全業種における来期(平成16年1月~3月)の業況見通しD I値は、24.9と今期(15年10~12月)の業況D I値 29.2と比較して4.3ポイントのプラスとなった。全体としては期待感はあるものの年末年始需要期の反動か、小幅なプラスの状況見通しとなった。

業種別では、来期の見通しと今期の業況D I値を比べプラスの業種は、製造業、建設業(職別・設備)、卸売業、小売業、サービス業の5業種で、特に製造業で期待感が大きいのがうかがえる結果となった。また、D I値がマイナスの業種は建設業(土木)、飲食業、の2業種であった。また建設業(職別・設備)では、D I値がプラスの結果となった。

各業種別の来期の業況見通しは、下の一覧のとおり。

業 種	業 況 見 込 (16年1~3月)	今期の業況 (15年10~12月)	今回調査との 比較ポイント
製 造 業	16.7	32.0	+15.3
建設業(土木)	46.7	33.3	13.4
建設業(職別・設備)	+9.1	±0.0	+9.1
卸 売 業	33.3	35.5	+2.2
小 売 業	31.0	34.7	+3.7
飲 食 業	55.6	54.5	1.1
サービス業	18.9	24.4	+5.5
全 業 種	24.9	29.2	+4.3